

高温に強い水稲早生新品種「はな結び」

1 はじめに（背景および技術の簡単な紹介）

福井県における水稲早生品種は、県内のみならず関西や中京市場にいち早く出荷できる重要な基幹品種です。現在の早生主力品種である「ハナエチゼン」は、水稲作付面積のおよそ25%を占めますが、その高温登熟性は“やや強”であり、極端な猛暑年には品質の低下が懸念されます。また、収穫翌年の夏の時期には食味が低下しやすい傾向があります。

そこで、高温登熟性が“強”で、収穫翌夏にも「コシヒカリ」と同程度の食味を維持できる水稲早生新品種「はな結び」を育成したので紹介します。

2 「はな結び」の特徴

1) 品種特性

「はな結び」の交配組合せは、越南 222 号//奥羽 407 号/越南 221 号で、出穂期、成熟期がハナエチゼンより1日遅い早生品種です（表1）。

稈長はハナエチゼンより約7cm短く（写真1）、穂数はハナエチゼンより100本/m²程度少ないですが、収量性はハナエチゼン並みです（表1）。成熟期には止め葉が立って草姿が良く、倒伏しにくい特長があります（写真1）。籾にはノゲがあります（写真3）。

表1 「はな結び」の栽培特性

品種名	出穂期 (月/日)	成熟期 (月/日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	倒伏 (0-5)	精玄 米重 (kg/a)	標準 比 (%)	千粒 重 (g)	整粒 率 (%)
はな結び	7/16	8/15	76.7	21.1	463	1.1	64.0	100	22.5	75
ハナエチゼン	7/15	8/14	83.8	19.1	571	3.1	64.0	100	22.0	64

注) 2021~2024年の平均値。移植日は5/2~5/8。収量調査時の篩目は1.9mm。整粒率は穀粒判別機(RGQI-100A)で測定。

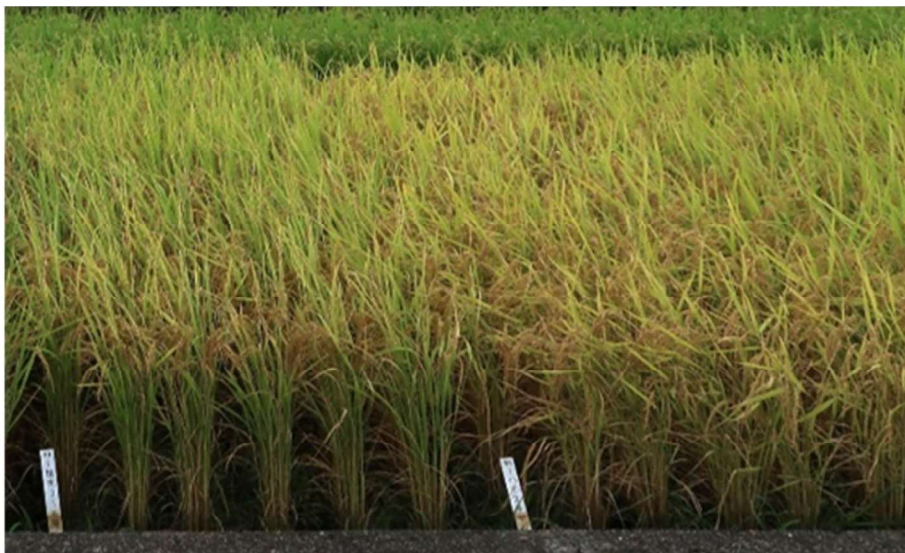


写真1 成熟期の草姿 左からはな結び、ハナエチゼン



写真2 株標本 上からハナエチゼン、はな結び



写真3 籾 左からハナエチゼン、はな結び

2) 高温登熟性

高温登熟性は“強”で、整粒率や玄米外観品質はハナエチゼンより優れています(図1、写真4)。

3) 食味評価

収穫後の食味は、ご飯の白さに優れ総合評価はハナエチゼンと同等以上です。収穫翌夏の食味は、ハナエチゼンより粘りが強く軟らかく、コシヒカリ並みの良食味を維持できます(図2)。

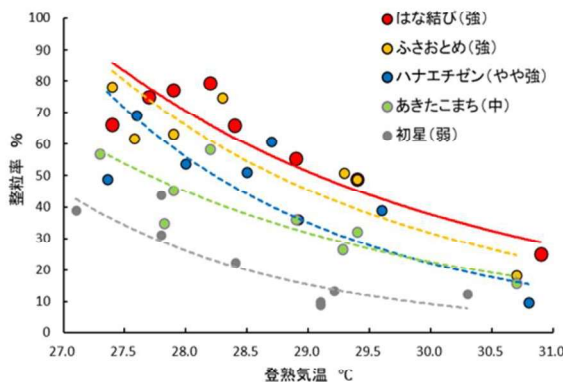


図1 高温登熟性評価結果
2020~2025年、福井農試の検定結果



写真4 玄米外観品質
2025年福井農試の生産力検定試験で収穫した玄米。登熟気温30.1~30.3°C
左からハナエチゼン、はな結び

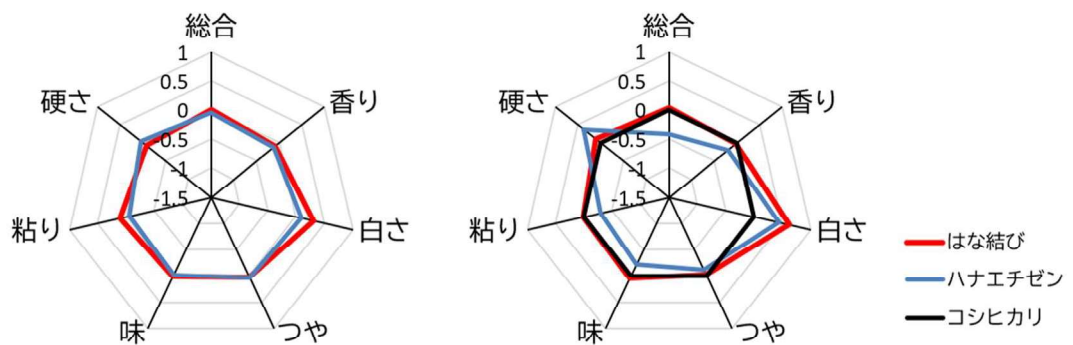


図2 「はな結び」の食味評価 左：収穫後、右：収穫翌夏

3 技術の効果およびコスト

ハナエチゼンに準じた栽培が可能であり、また、高温年にも良質な米が収穫でき、通年で良食味を保てるメリットがあります。

(農試 品種開発研究部 水稻育種研究G)

[その他]

研究課題名：安定良食味な水稻早生品種の開発

研究期間：平成30年~令和6年

研究担当者：小林麻子・中岡史裕・渡辺脩斗・町田芳恵・佐藤信仁・茶谷弦輝・両角悠作・米田考志・巻田恵理奈・富田桂・佐藤有一